

令和7年度 鳳凰高等学校自己評価表

| | |
|--------|---|
| 学校経営方針 | 教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である「 誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育 」の実現のために学園の総力を集結し、その教育成果をもって地域社会の信頼に応え、開かれた学園として社会に貢献する。 |
| 教育目標 | 誠実 (1) 思いやりを持ち、他者への感謝の気持ちを忘れない生徒の育成 (2) 確たる自分を持ちながら、他を認める精神を併せ持つ生徒の育成 (3) 挨拶を軸とした礼儀作法の涵養による健全な心身の育成 社会 (1) あらゆる変化にも柔軟に対応できる人材の育成 (2) 価値観を認め合い、他者と協力しながら問題を解決できる生徒の育成 (3) 主体性を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成 人間力 (1) 最善を追い求める姿勢の育成 (2) 物事の本質をとらえ、論理的に考える力の育成 (3) 困難を乗り越えるため創意工夫する力の育成 |

*100点満点

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | 前年度 | 成果と課題 |
|--|------------|--|---|----|-----|---|
| 1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価 | | | | | | |
| (1) | 学校経営方針 | 経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。 | 明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。 | 83 | 86 | 中長期のビジョン共有や教育方針の明示についての評価が低下した。チーム体制への移行期だからこそ、学校の軸となる方針を全教職員でブレずに共有し、保護者・地域へ発信していくことが今後の課題である。 |
| | | | 教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。 | 72 | 74 | |
| (2) | 学校教育目標の具現化 | 学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。 | 建学の精神に則った適切な目標を設定する。 | 80 | 84 | 建学の精神に基づく重点目標の具現化に対する評価がやや低下した。生徒の多様化に対応するため、全教職員が改めて目標を再確認し、足並みを揃えて指導を展開していく必要がある。 |
| | | | 教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。 | 80 | 84 | |
| (3) | 学年経営 | 学校目標に沿った学年目標による経営を行う。 | 学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。 | 81 | 78 | 学年部会を通じた情報共有が向上し、学年目標の浸透に明確な成果を感じている。チーム担任制の強みが学年運営において十分に発揮できていると実感している。 |
| | | | 学年部会を月1回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。 | 90 | 87 | |
| (4) | 学級経営 | 学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。 | 学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。 | 75 | 79 | 個別面談や意欲的な学級経営への手応えは向上した一方、学級通信を通じた情報発信については自己評価が大幅に低下した。チーム体制下において、保護者へどのようにきめ細やかな情報提供を行うかが急務である。 |
| | | | 個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。 | 83 | 81 | |
| | | | 生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。 | 82 | 81 | |
| | | | 学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。 | 63 | 76 | |
| (5) | 学科経営 | 学校目標及び学科目標に沿った学科づくりを行う。 | 学科目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。 | 79 | 82 | 学科会議等での教員間の連携は強固になったと感じているが、生徒への目標浸透にはやや課題感が残る。各学科の特色を活かした指導を、さらに生徒へと還元・定着させる工夫が必要である。 |
| | | | 学科会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題や学科行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。 | 91 | 89 | |

| 2 教育活動 教育活動全般における教育的成果の評価 | | | | | | | |
|---------------------------|---------|-------------------|---|---|----|----|---|
| (1) | 教育課程の編成 | 創意工夫された適切な教育課程の実施 | 学習指導要領の趣旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。 | 各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。 | 89 | 89 | 特色ある教育課程の編成は高く評価しているが、シラバスを通じた事前の学習目的説明については自己評価がやや低下した。生徒への周知徹底とシラバスのさらなる活用が次年度の課題である。 |
| | | | | 教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。 | 88 | 88 | |
| (2) | 教科指導 | わかる授業の展開と工夫・改善 | 創意・工夫がなされた学習指導を行う。 | 各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。 | 79 | 81 | 教材研究への意欲は保たれているが、生徒による授業評価アンケートの定期実施についての評価が低下した。教員の指導力を高めるため、客観的な授業改善・検証体制の再構築が必要である。 |
| | | | | 教材研究や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うために研究授業に積極的に参観したり、自らも研究授業を実施する。 | 78 | 79 | |
| | | | | わかり易い授業を推進するために、生徒による授業評価を定期的に実施する。 | 74 | 81 | |
| (3) | 特別活動 | ホームルーム | 学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。 | 年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。 | 66 | 69 | 学校行事の工夫への評価は維持しているが、ホームルームや生徒会において、生徒の自主的活動にやや停滞を感じている。生徒が主体的に参加できるよう、教職員からの支援や後押しをしていく必要がある。 |
| | | 生徒会活動の充実 | 生徒の自主的・自発的な活動を推進する。 | 生徒の自主性を尊重し、積極的・意欲的に活動に参加させる。 | 72 | 74 | |
| | | 学校行事の充実 | 生徒の実態に即した効果的な行事を企画運営する。 | 効果的な学校行事となるよう生徒・保護者の意見も参考にしながら常に工夫・改善を行う。 | 79 | 78 | |
| (4) | 生徒指導 | 基本的な生活習慣の「見届ける指導」 | 中途退学を未然に防ぐための生徒理解に務め、基本的な生活習慣の定着や交通マナーを遵守させる、きめ細やかな指導を行う。 | 欠席のない、けじめあるクラスづくりの実践。 | 75 | 77 | 挨拶や時間厳守の指導、多角的な生徒理解において、基本的な生活習慣の定着に確かな手応えを感じている。引き続き、チーム体制を活かした複数教員によるきめ細やかな指導を継続する。 |
| | | | | 服装・容儀の徹底指導。(特に頭髪・スカート丈) | 79 | 80 | |
| | | | | 挨拶の励行・時間厳守の浸透。(始業時間に授業がスタート) | 87 | 83 | |
| | | | | 交通安全指導の徹底(違反者・事故者ゼロを目標) | 81 | 81 | |
| | | | | 教育相談・健康相談・悩みの相談など多角的な生徒理解の推進 | 89 | 87 | |

| | | | | | | | |
|-----|----------|-------------------|--------------------------------------|---|----|----|--|
| (5) | 進路指導 | 進路指導の充実 | 系統的・計画的な進路指導を行う | 進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う。 | 79 | 79 | 模試などの計画的実施は定着しているが、講演会や三者面談の評価が低下した。個々の進路実現に向け、外部機関や卒業生との連携を含めた進路行事の充実が課題である。 |
| | | | | 進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う。 | 73 | 78 | |
| | | | | 職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。 | 70 | 71 | |
| (6) | 人権教育 | 人権尊重に対する普遍的価値観の育成 | 人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。 | 日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。 | 86 | 85 | 日常の教育活動を通じた人権尊重の精神育成については、「着実に成果が上がっている」と実感しており、引き続き互いを思いやる態度の育成に努める。 |
| (7) | 部活動 | 部活動の活性化 | 部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。 | 部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。 | 79 | 81 | 参加奨励や学習との両立支援に関する評価がやや低下した。多様化する生徒のニーズに応じた部活動のあり方を検討し、積極的な入部奨励につなげていくことが課題である。 |
| | | | | 部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。 | 77 | 80 | |
| (8) | ボランティア活動 | ボランティア活動の充実 | ボランティア精神の高揚を図る。 | ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。 | 75 | 71 | ボランティア情報の提供と参加奨励への評価が向上しており、生徒の参加を後押しする体制が整いつつあると実感している。 |
| | | | | 施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。 | 78 | 80 | |
| (9) | 資格取得 | 各種資格取得奨励 | 個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。 | 英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。 | 73 | 75 | 各種検定への挑戦奨励に対する評価が低下した。生徒の学習意欲を高めるため、個々に応じた細やかな資格取得支援を強化する必要がある。 |

3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価

| | | | | | | | |
|-----|------|-------------------|---------------------------------|--|----|----|---|
| (1) | 校務分掌 | 適切な役割分担、組織的な活動と運営 | 各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。 | 年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。 | 94 | 90 | 分掌業務の改善や各組織間の相互連携について、大きな向上を感じている。チーム担任制導入に伴う業務見直し機能が、組織的な協働運営に強い手応えを得ている。 |
| | | | | 校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。 | 86 | 85 | |
| | | | | 分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。 | 85 | 84 | |
| (2) | 校内研修 | 研修体制の確立と実践 | 計画的・組織的に授業研究などを行う。 | 生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。 | 80 | 78 | 全職員での校内研修は充実しているが、研究授業の実践については自己評価が低い水準に留まった。高まった研修意欲を、実際の「授業力向上」にどう直結させるかが急務である。 |
| | | | | 指導実践力の向上を図るため研究授業及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。 | 58 | 59 | |
| | | | | 校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。 | 69 | 66 | |
| (3) | 現職教育 | 教職員の資質向上への取り組み | 教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。 | 教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。 | 78 | 76 | 外部研修会への積極的な参加や伝達機会が増加しており、教職員自身の「自己研鑽への意欲」の高まりを実感している。 |

| 4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価 | | | | | | | |
|-----------------------------------|--------------|------------|---|--|----|----|--|
| (1) | 学校環境整備 | 快適な生活環境の整備 | 日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。 | 日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。 | 88 | 89 | 日常や特別な清掃活動に関する自己評価が低下した。チーム担任制により指導責任が分散しないよう、全教職員で環境美化の意識を統一し、徹底した指導を行う必要がある。 |
| | | | | 特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。 | 84 | 86 | |
| | | | | 省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。 | 88 | 89 | |
| (2) | 施設設備の管理 | 有効活用と安全管理 | 施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。 | 施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。 | 80 | 84 | 施設設備の安全点検や補修に対する評価がやや低下した。老朽化対策も含め、安全運用の最優先という意識を再徹底し、適切な維持管理に努める。 |
| | | | | 日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。 | 91 | 92 | |
| (3) | 情報インフラの設備の充実 | 教育活動全般の情報化 | パソコン等を使った校務処理を適切に行う。 | パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。 | 93 | 92 | PCを利用した校務処理の推進やデータ管理の徹底について、業務効率化の観点から引き続き手応えを感じている。 |
| | | | | パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。 | 90 | 92 | |
| 5 開かれた学校づくり | | | | | | | |
| (1) | 保護者との連携 | 協力体制の確立 | 生徒に関する情報を相互に交換する。 | 保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。 | 77 | 78 | 個別面談やPTA説明機会、PTA活動支援についての自己評価が全体的に低下した。チーム体制への移行にあたり、保護者との緊密な連携・協力体制をどう再構築するかが最大の課題である。 |
| | | | | PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。 | 73 | 78 | |
| | | | | 自主的なPTA活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。 | 71 | 76 | |
| | | | | PTA関係の会議への参加率向上に努める。 | 61 | 61 | |
| (2) | 地域や関係機関との連携 | 学校間連携の充実 | 他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。 | 関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。 | 66 | 71 | 中学校や大学等の関係機関との連携、苦情等への対応体制についての自己評価が低下した。「開かれた学校」として、外部連携機能の強化や地域との関係づくりに再び注力する必要性を痛感している。 |
| | | | | 地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかにを行う。 | 66 | 69 | |
| (3) | 学校情報の公開 | ホームページの更新 | ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。 | 学校情報の積極的発信に努める。 | 70 | 70 | HP等を通じた積極的な情報発信は維持しているが、保護者や地域へ向けて、さらにリアルタイムで分かりやすい情報公開の工夫が必要である。 |

【総評】

【総評】

| | |
|---------------------------|---|
| <p>評価の結果 (課題と問題点)</p> | <p>(1) 学校経営全般について 学年・学科内での連携が深まり生徒理解が進んだ一方で、学校の中長期ビジョンや教育方針の全校的な共有がやや希薄になっている。また、学級通信を通じた情報発信など、保護者へ向けた日常的なアプローチの評価が著しく低下しており、チーム体制下での「家庭との連携不足」が大きな問題点である。</p> |
| | <p>(2) 教育活動全般について 複数教員による基本的な生活習慣(挨拶・時間厳守)の指導は定着しているが、生徒による授業評価アンケートの定期実施や、シラバスを活用した学習目的の事前説明が低下した。教員の指導意欲は高いものの、客観的な授業の検証機能が弱まっている。また、進路関係の行事や面談の評価が低下傾向にあることも課題である。</p> |
| | <p>(3) 組織運営全般について 校務分掌の見直しや組織間の連携、外部研修への参加意欲は極めて高く、組織としての地力は上がっている。しかし、その高まった自己研鑽の意欲が、「研究授業の積極的な実施」という具体的な実践行動に結びついていない点が最大の課題である。</p> |
| | <p>(4) 教育環境全般について ICTを活用した校務処理は高く評価しているが、日常の清掃指導や施設設備の安全点検に対する評価が低下した。複数担任制などの新しい枠組みの中で、「環境美化や安全管理に対する当事者意識・責任の所在」が分散してしまっている懸念がある。</p> |
| | <p>(5) 開かれた学校づくりについて PTA活動支援、保護者への説明機会、中学校や関係機関等との連携に対する自己評価が全体的に大きく低下した。組織内部の連携づくりに注力した結果として、家庭や地域といった外部へのアプローチが手薄になっているという危機感を持っている。</p> |
| <p>今後の改善策</p> | <p>(1)学校経営全般について 新体制下においてもブレないよう、学校全体のビジョンを全教職員で定期的に再確認する機会を設ける。また、複数担任制の中で「誰が・どのように家庭へ情報を発信するか(通信の発行や連絡体制など)」の役割分担を明確にし、保護者との円滑なコミュニケーション体制を早急に再構築する。</p> |
| | <p>(2)教育活動全般について 客観的な授業改善・検証システム(アンケートの確実な実施やシラバスの有効活用)のサイクルを再徹底し、生徒の学習意欲を高める。進路指導においては、外部機関や卒業生との連携を強化し、個々の進路実現に向けた行事や面談の充実を図る。</p> |
| | <p>(3)組織運営について 外部研修等で得た知見や高まった指導意欲を、実際の「授業力向上」に直結させる仕組みを作る。教職員が互いの授業を見学し合う機会や、研究授業を実施・還元しやすい風土づくりを組織全体で推進する。</p> |
| | <p>(4)教育環境全般について 教職員全員が「学校環境の維持と安全運用の最優先」に対する当事者意識を再認識できるよう働きかける。チーム体制においても指導の抜け漏れがないよう、清掃指導や安全点検の担当・確認フローを明確にし、徹底した維持管理に努める。</p> |
| | <p>(5)開かれた学校づくりについて 「開かれた学校」としての機能を再活性化させる。ホームページ等でのリアルタイムな情報公開をさらに工夫するとともに、保護者や地域関係者との対話・説明の機会を意図的に増やし、外部から信頼される開かれた連携体制を立て直す。</p> |